

A 3D architectural rendering of a city block. The scene shows a mix of building heights and styles, with a central park area featuring green lawns, trees, and a paved walkway. The buildings are rendered in shades of gray and brown, while the park is in green and brown. The overall view is from an elevated perspective.

松原公園整備基本構想

A 3D architectural rendering of a city block, similar to the top image but with a different perspective. It shows a large building on the left, a paved walkway, and a river or canal in the foreground. The scene is rendered in shades of gray, brown, and green.

令和7年（2025）3月
佐賀市

第1章 松原公園整備基本構想について

- 1 背景と目的 P1
- 2 松原公園整備基本構想の策定範囲 P1
- 3 策定体制 P1
- 4 松原公園整備と各種計画との位置づけ P2

第2章 松原公園周辺の現状と課題

- 1 松原公園周辺の変遷 P4
- 2 松原公園周辺の現状 P7
- 3 松原公園周辺の課題 P10

第3章 松原公園整備における課題

- 1 ワークショップ・アンケートの結果 P11
- 2 四者連携会議での議論 P16
- 3 基本構想策定会議での議論 P16
- 4 課題の整理 P17

第4章 基本方針と松原公園周辺へのまちづくりの展開

- 1 基本方針 P18
- 2 ゾーニング・動線計画 P20
- 3 整備イメージ P21
- 4 基本構想図 P23
- 5 松原公園周辺へのまちづくりの展開 P24

第5章 構想の実現に向けて

- 1 整備に向けた検討 P25
- 2 整備の進め方 P25
- 3 構想実現に向けたフロー（イメージ） P25

第1章 松原公園整備基本構想について

1 背景と目的

松原一帯には、龍造寺家や佐賀藩祖らを祀る松原神社、10代藩主鍋島直正公、11代直大公を祀る佐嘉神社、鍋島家伝来の歴史資料などを所蔵・展示する徴古館があります。江戸時代には佐賀藩校弘道館が設けられ、大正時代には直正公の銅像や、佐賀図書館なども建てられ、人々が集まる文教地区でもありました。

松原公園は、第1期整備として、平成21年(2009)から徴古館前のエントランス空間の整備を実施し、平成23年(2011)4月に開設しました。

その後、令和2年(2020)11月に佐賀鍋島伝承遺産顕彰会の主催で、「鍋島文化を活かした佐賀のまちづくりを語る会」が開かれ、松原周辺の変遷をたどりながら、佐賀県知事や佐賀市長、鍋島報効会理事長らが、将来のまちづくり等について意見を交わしました。

これを契機として、次期公園整備の動きが本格化しました。

本市では、令和3年(2021)7月に「松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会(以下「懇話会」という。)」を立ち上げ、令和5年(2023)3月に松原公園周辺の将来像と整備コンセプトを取りまとめました。

この度策定する「松原公園整備基本構想(以下「本構想」)」は、これらの背景を踏まえながら、歴史ある公園として、市民等が日常的に訪れたいと思える場所とするための基本的な考えをまとめたものです。

2 松原公園整備基本構想の策定範囲

本構想では、松原公園周辺の広域エリアの位置づけを定めるとともに、松原公園整備の基本方針、整備イメージと基本構想図、松原公園周辺へのまちづくりの展開などを策定するものとします。

■本構想の策定範囲

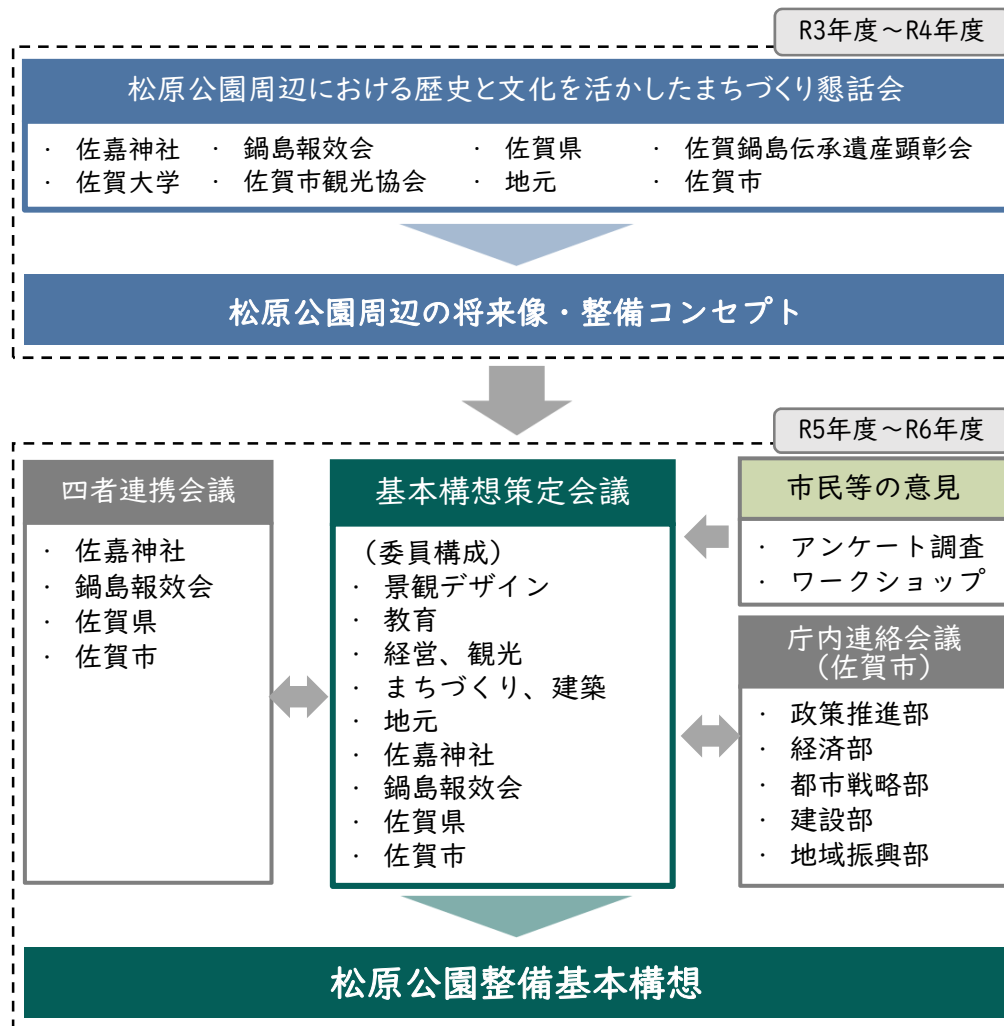


3 策定体制

先述のとおり、松原公園は佐賀市にとって歴史的・文化的にも重要なエリアです。さらに、現代においてはSAGAサンライズパークからの南北軸の動線上に、また、まちなかと城内とを結ぶ重要な位置にあり、まさに「歴史」と「まち」をつなぐ結節点となっています。

本市では懇話会を設置し、市民、関係団体、行政等が徴古館、佐嘉神社、松原神社及びその周辺のまちづくりについて、多様な観点から意見交換を重ねてきました。そして、令和5年(2023)3月に松原公園周辺の将来像と整備コンセプトを取りまとめました。

この整備コンセプトを具体化するため、令和5年(2023)11月に「松原公園整備基本構想策定会議」を立ち上げました。さらに、「四者連携会議」における地権者との議論、佐賀市の「庁内連絡会議」における関係各課との協議、市民等から徴取した意見を踏まえ、本構想を策定しました。

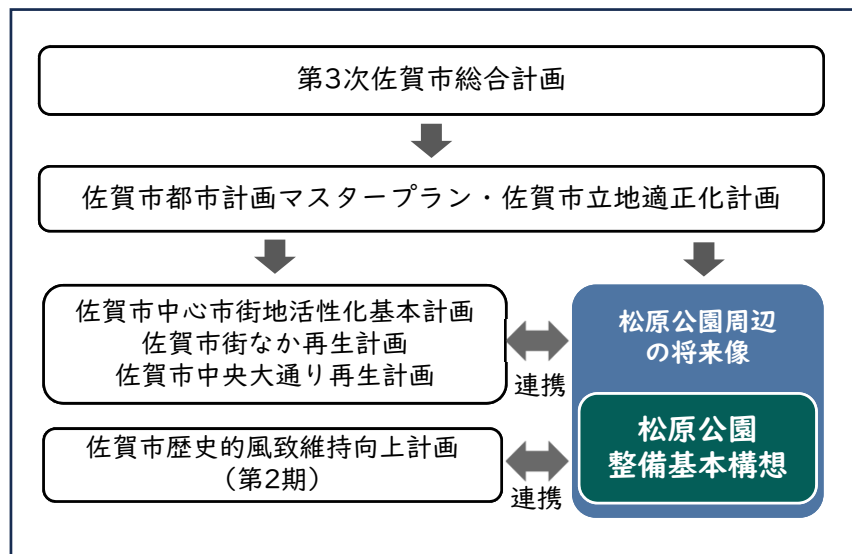


第1章 松原公園整備基本構想について

4 松原公園整備と各種計画との位置づけ

○上位関連計画の位置づけ

本構想は、「第3次佐賀市総合計画」や「佐賀市都市計画マスタープラン」、「佐賀市立地適正化計画」の上位計画に即するとともに、「佐賀市街なか再生計画」や「佐賀市歴史的風致維持向上計画(第2期)」等のまちづくり計画と連携し、より魅力的なまちづくりを推進するものとします。



○上位計画における佐賀市の将来像

本構想の上位計画にあたる「第3次佐賀市総合計画」や「佐賀市立地適正化計画」では、下記のようにめざす将来像を設定しています。

■第3次佐賀市総合計画

『佐賀らしさでみんなが上を向くまち』

■佐賀市立地適正化計画

未来につながる集約拠点都市
“歩いて暮らして仕事して”

○「まちづくりの視点」

佐賀駅周辺地区は、グローバルとローカル、駅とまちなかなど、各エリア間をつなぐとともに、人と人をつなげる拠点としての役割が求められています。

駅前の空間から、南北の拠点エリアへと人の流れを誘導し、駅と拠点エリアとの接続・連携の強化などを狙っています。

■「まちづくりの視点」

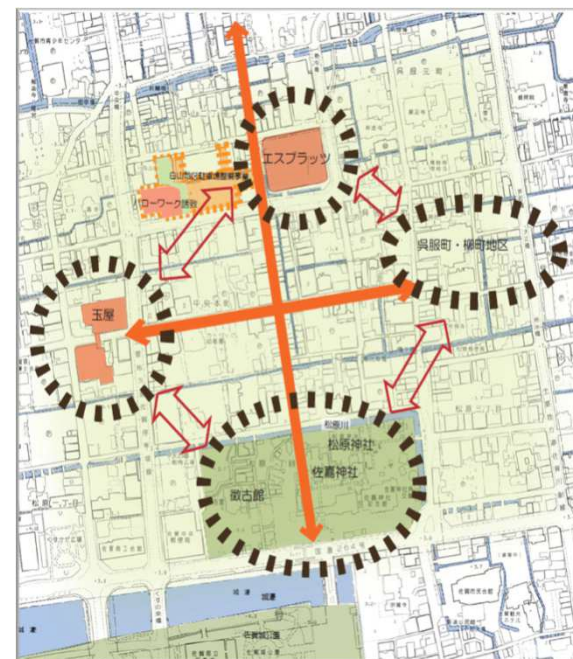


○佐賀市街なか再生計画における「4核構想」

「佐賀市街なか再生計画」(H23.3策定)では、拠点施設であるエスプラッツと佐賀玉屋に加え、呉服元町・柳町周辺と佐嘉神社・徴古館を有する松原公園周辺を、賑わい再生の「拠点」として位置づけ、これらの拠点に囲まれたエリアを「4核構想エリア」として位置づけています。

4核構想エリアの魅力を上向きさせ、人々が街中を訪れるきっかけをつくり、4核構想の賑わいがまちなか全体へと広がっていくことを狙っています。

■佐賀市街なか再生計画における「4核構想」



第1章 松原公園整備基本構想について

4 松原公園整備と各種計画との位置づけ

○松原公園周辺の将来像（R5.3策定）

「松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会」

令和3年（2021）8月から令和5年（2023）3月にかけて、「松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会」を開催しました。懇話会では、佐嘉神社や鍋島報効会、佐賀県や佐賀市など、松原公園周辺の関係者や有識者が集い、今後の松原公園周辺のあり方について議論を行い、松原公園周辺の将来像や基本理念、第2期整備のコンセプト等を作成しました。

本構想は、懇話会で作成した松原公園周辺の将来像を踏まえて、実現に向けて計画を具体化していくため、策定することとします。

松原公園周辺の将来像

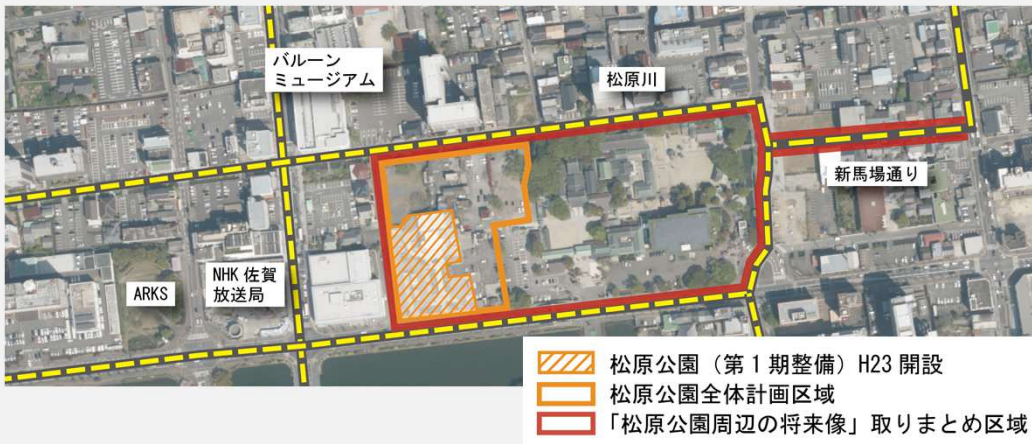
佐賀鍋島の伝統と、文化が息づく歴史体感エリア

～みんなで創り、未来へ紡ぐ“松原”～

基本理念

松原一帯は、江戸時代からの歴史の変遷の後、現在は龍造寺家や佐賀藩祖を祀る松原神社、10代藩主直正公らを祀る佐嘉神社（旧別格官幣社）、鍋島家伝来品を所蔵する徴古館があり、佐賀の歴史文化の象徴となる意義深い場所です。現代においてはSAGAサンライズパークエリアから佐賀城公園エリアへの南北軸の動線上に、また、まちなかと城内とを結ぶ重要な位置にあり、まさに「歴史」と「まち」をつなぐ場所となっています。

このため、一帯の核となる松原神社・佐嘉神社・徴古館と、松原川や楠の緑と相まった歴史的景観の維持向上を図り、佐賀の人々が誇りに思い、未来（後世）にしっかりと継承していけるようなエリアとなるよう、取り組みを進めていきます。神社、鍋島報効会、県、市が連携することで、ここを起点とした周辺との回遊を創り出せるエリアづくりをめざします。



第2期整備の整備コンセプト

- ・憩いの緑や松原川の水辺を活かし、気軽に訪れたい場所として整備し、核となる松原・佐嘉神社・徴古館へと誘う
- ・まちなかからの動線や徴古館・神社との自由な往来を意識した整備



- 新松原マーケット（仲見世）の整備
- 水辺空間を活かした施設整備
- 緑地、まちなかからの動線整備



第2章 松原公園周辺の現状と課題

I 松原公園周辺の変遷

○松原神社・佐嘉神社

松原神社は、明和9年(1772)に藩祖鍋島直茂公を祀るため「日峯社」として創建されました。のちに龍造寺隆信公も祀られ、明治6年から「松原神社」と呼ばれるようになりました。
佐嘉神社は、昭和8年(1933)に10代藩主鍋島直正公を祀る神社として創建されました。国家的功績のあった人物を祀る「別格官幣社」という社格でした。

■松原神社



■佐嘉神社



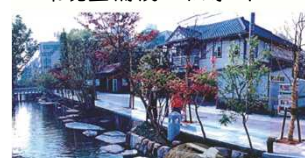
○松原川

松原川は、江戸時代、城下東側の武家地などに生活用水を届けるために作られた人工河川です。昭和50年代には、生活様式の変化などにより松原川の汚れはピークに達していましたが、市民による清掃活動や松原川環境整備事業により、情緒ある雰囲気となりました。松原川には、河童がいたという伝説があり、松原神社の神門には河童像が掲げられています。

■松原川の河童



■環境整備後の松原川



○佐賀バルーンミュージアム

平成28年(2016)、佐賀市で開催された「佐賀熱気球世界選手権」の開幕に先立ちオープンしました。バルーン(熱気球)をテーマにした日本初のミュージアムとして、いつでもバルーンを体感できる施設となっています。また、敷地の一角には「旧嬉野家の武家屋敷の門」が残されています。



○徴古館

昭和2年(1927)、12代当主鍋島直映公により、県内初の博物館として開館しました。戦後から永らく閉館していた徴古館でしたが、平成10年(1998)に再スタートしました。鍋島家伝来品の展示などにより、鍋島家の歴史や佐賀の地域史に関する情報を発信し続けています。また、毎年2月から3月には、「佐賀城下ひなまつり」の会場となっており、多くの人々が来館しています。



○銅像園と松原公園

大正2年(1913)、佐賀県民及び佐賀県出身者らの寄付により、高さ4mを超える直正公銅像が建立されました。佐賀図書館や弘道館記念碑、徴古館、佐嘉神社などが建設されると、「歴史・文化・祈りの中心地」として人々が集まる場所となりました。その後、戦争により直正公の銅像は供出され、戦後は一帯が引揚者の生活の場となりました。店舗が連なる「松原マーケット」が自然と形成されましたが、平成に入り次第に店舗が減っていき、平成23年(2011)に「松原公園(第1期整備)」が整備されました。

■昭和10年代の徴古館佐嘉神社の様子



○新馬場通り

新馬場通りは、日峯社(松原神社)の参道にあたり、たくさんの旅館が並ぶなど、昭和の中頃まで大変賑わっていました。



第2章 松原公園周辺の現状と課題

1 松原公園周辺の変遷（江戸～大正）

徴古館周辺	和暦（西暦）	松原神社・佐嘉神社・新馬場通り
	明和9年（1772）	8代藩主治茂公が藩祖直茂公を祀る 日峯社（松原社）創建
	寛政10年（1798）	日峯社（松原社）の石の鳥居完成
	文化14年（1817）	松原神社参道として新馬場が開かれ、銅製と木製の鳥居が建立、東端に下宮造営
	慶応3年（1867）	藩祖直茂公没後250年祭礼
	明治9年（1876）	松原神社の神苑が造営（翌年完成）
協和館が完成	明治19年（1886）	
佐賀県物産陳列所開設	明治29年（1896）	
10代藩主直正（閑叟）公銅像建設、 一帯は銅像園として整備 / 佐賀図書館落成	大正2年（1913）	
弘道館記念碑建設	大正12年（1923）	松原神社に11代直大公を合祀
佐賀市公会堂落成	大正15年（1926）	

■銅像除幕式写真 大正2年（1913）撮影



鍋島報効会所蔵

■佐賀図書館と直正公銅像
銅像園絵葉書 大正2～5年頃撮影



鍋島報効会所蔵

■明治時代の松原神社参道（新馬場）



『明治銅版画 佐賀縣獨案内（復刻版）』青潮社、昭和58年

第2章 松原公園周辺の現状と課題

1 松原公園周辺の変遷（昭和～令和）

徴古館周辺	和暦（西暦）	松原神社・佐嘉神社・新馬場通り
	徴古館開館 昭和2年（1927）	
佐賀図書館が鍋島家から佐賀県に移管、「県立佐賀図書館」となる	昭和4年（1929）	
	昭和8年（1933）	佐嘉神社創建 10代直正公、松原神社から佐嘉神社へ遷座
	昭和18年（1943）	銅の鳥居など 金属供出
直正公銅像、古川松根銅像 金属供出	昭和19年（1944）	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">松原マーケット形成</div> 建物接收により、徴古館閉館	昭和20年（1945）	
	昭和23年（1948）	11代直大公、松原神社から佐嘉神社へ遷座
県立佐賀図書館が「佐賀県立図書館」と改称 / 松原公園風致地区指定	昭和25年（1950）	
佐賀県立図書館が城内へ移転、鍋島家伝来の文書・典籍類約33,000点を寄託	昭和38年（1963）	
松原の旧佐賀県立図書館の建物解体	昭和48年（1973）	
	昭和58年（1983）	佐嘉神社創建50年 / 佐嘉神社記念館開館
松原川整備事業の完成 （S63～H3）	平成3年（1991）	
徴古館再開	平成10年（1998）	
松原公園整備事業（第1期）完成 （H21～22）	平成23年（2011）	
徴古館開館100年	令和9年（2027）	
	令和15年（2033）	佐嘉神社創建100年

■開館当初の徴古館



鍋島報効会所蔵

■昭和10年代の徴古館・佐嘉神社の様子



鍋島報効会所蔵

■創建当初の佐嘉神社



『佐嘉神社寫真帖』 6

2 松原公園周辺の現状

○松原神社・佐嘉神社

幕末の藩主鍋島直正公、直大公を祀る佐嘉神社と藩祖直茂公らを祀る松原神社は、佐賀のお殿様をお祀りする神社として、親しまれています。

正月の三が日には約30万人が参拝し、賑わっています。様々な年中行事やお祭りは、訪れる人に季節の移ろいを感じさせてくれます。



▲松原神社



▲佐嘉神社



▲1月 初詣



▲2月 節分祭 豆まき神事



▲3月 佐賀城下ひなまつり



▲3月 ひな祭り 流し雛



▲3月 イベントの様子



▲4月 春祭り
「日峯さん」



▲6月 大祓式 夏越祭



▲10月 秋祭り「日峯さん」



▲10月 神幸祭



▲11月 七五三準備の様子



▲11月頃 佐嘉神社奉納
少年剣道大会



▲11月 新嘗祭

2 松原公園周辺の現状

○徴古館とその周辺

徴古館は、旧佐賀藩主・侯爵鍋島家伝来の歴史資料・美術工芸品を展示する博物館として親しまれています。特に、佐賀市内で開催されている佐賀城下ひなまつりの時には、県内外から多くの人々が訪れます。

建物は国の登録有形文化財で、正面は半円形の車寄せがあり、本格的な洋風建築の意匠が特徴です。その雰囲気を活かして、館内では音楽会や講演会なども行われています。徴古館周辺の公園予定地は、旧松原マーケットの店舗や住宅が点在しているほか、駐車場として利用されています。



▲徴古館エントランス空間



▲展示説明の様子



▲音楽会の様子



▲佐賀城下ひなまつり期間中
生花で彩られた徴古館



▲ひなまつり展示の様子



▲旧松原マーケット



▲駐車場

第2章 松原公園周辺の現状と課題

2 松原公園周辺の現状

○松原公園周辺の公園・広場

松原公園周辺には、くすかぜ広場ARKS(アルクス)等の公園・広場があり、松原公園整備の際には各公園との役割分担を検討する必要があります。

くすかぜ広場アルクス



主な機能

- ・芝生広場
- ・大屋根・店舗・トイレ
- ・可動式遊具
- ・可動式什器

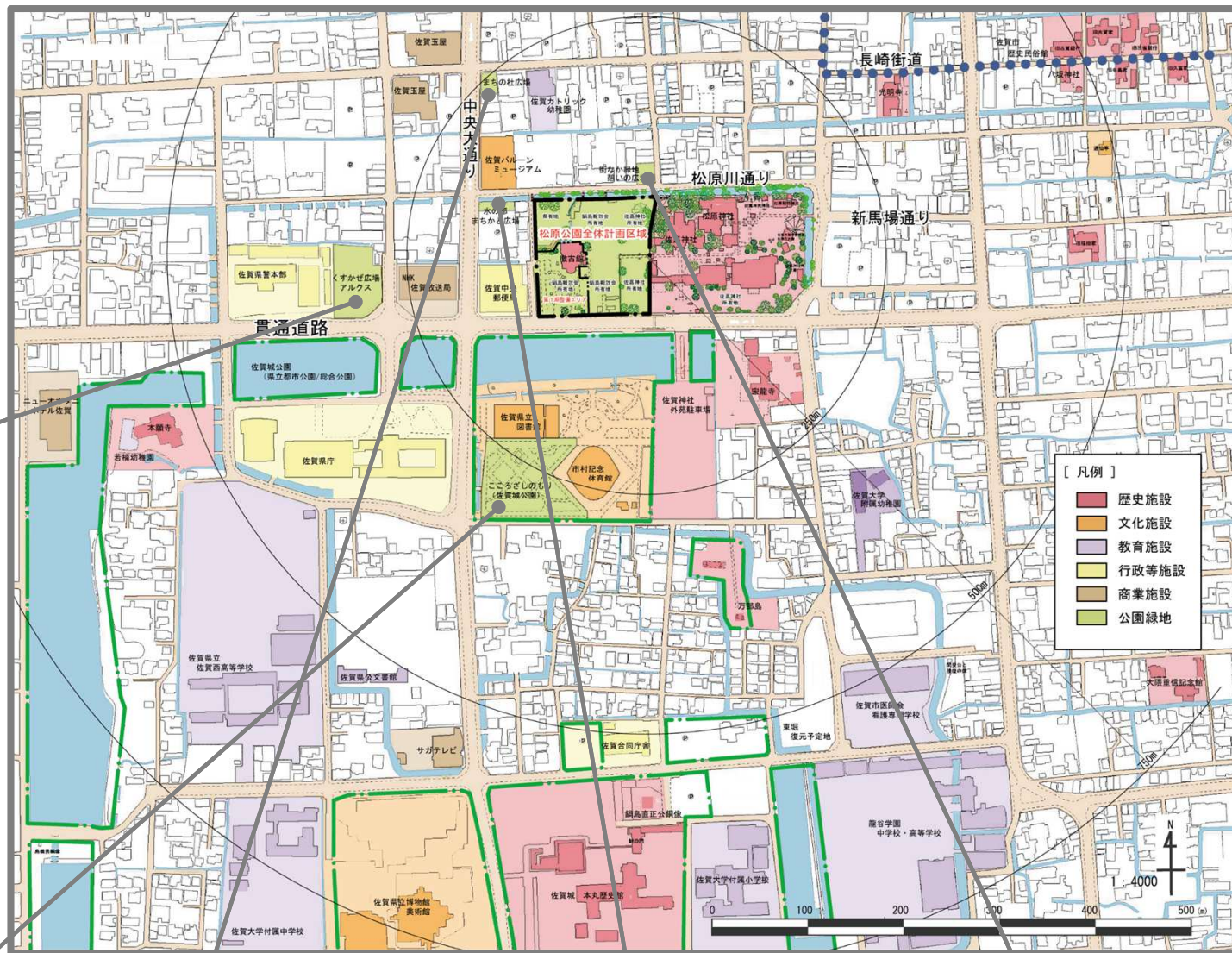


こころざしのもり (佐賀城公園)



主な機能

- ・芝生広場
- ・築山遊具
- ・可動式什器、ベンチ
- ・噴水・親水空間



まちなか杜広場



機能 ・人工芝・ベンチ

水の郷まちかど広場



機能 ・ベンチ・銅像

街なか緑地憩いの広場



機能 ・トイレ・ベンチ

3 松原公園周辺の課題

○松原公園周辺エリア全体の課題

- 松原神社・佐嘉神社、徴古館が同じエリアに位置しているものの、それぞれが独立しており、エリアとしての一体感がない。
- 駐車場を中心とした土地利用がされている。
- 神社や徴古館を訪れる人が、休憩など滞在できる場所がない。



▲駐車場としての利用



▲敷地を隔てている垣根

○景観上の課題

- 国の登録有形文化財である徴古館や、松原神社、佐嘉神社の社殿などの歴史的な建物があるものの、ブロック塀などで、佐嘉神社の魅力的な建物が見えない。
- 松原川や大楠を中心とした社寺林として豊かな自然環境があるものの、サギやカラスによる環境被害が大きい。



▲佐嘉神社を隠すブロック塀



▲繁茂する松原川沿いの樹木

○拠点性と回遊性の課題

- 「初詣」「節分」や「日峯さん」などの行事や「佐賀城下ひなまつり」などのイベント時には人が集まり賑わうが、周辺施設への回遊行動に発展していない。
- 行事やイベントがない時の求心力が乏しく、日常的に訪れる場所になっていない。
- 松原川と佐嘉神社は隣接しているが、つながりが感じられない。



▲佐嘉神社と徴古館との動線がわかりにくい



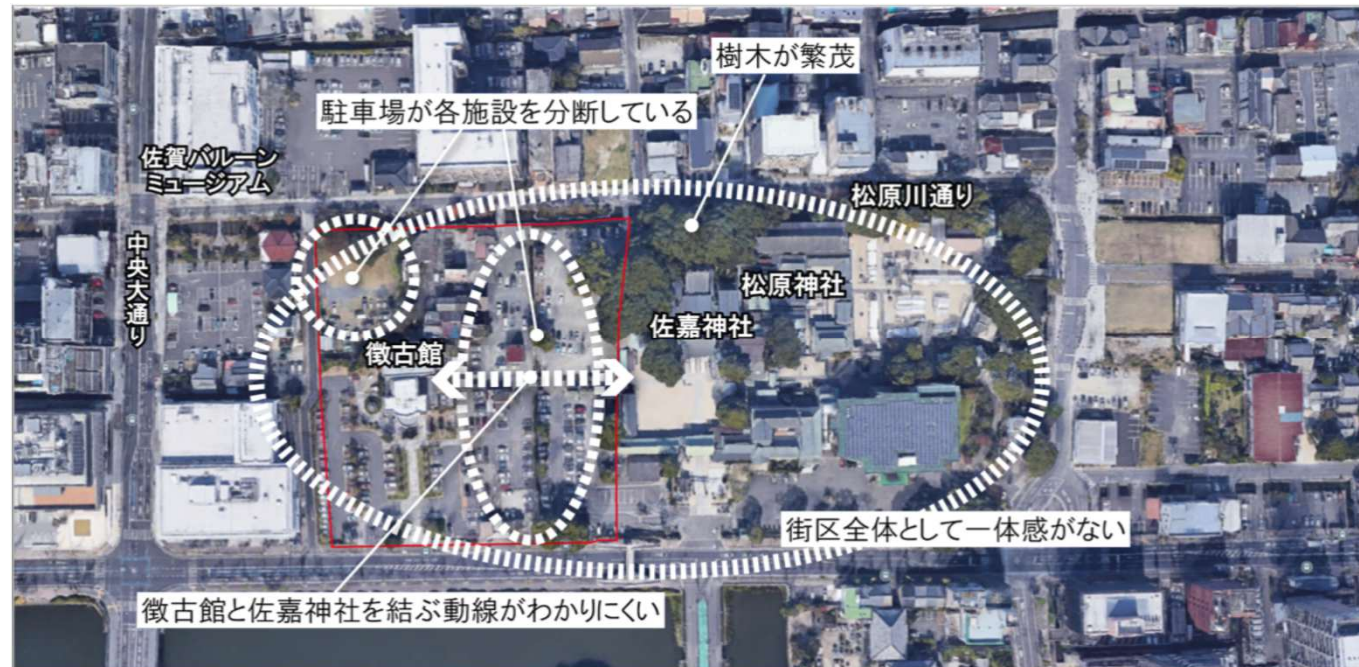
▲節分祭の豆まき

○周辺の歴史施設との連携の課題

- 「佐賀城本丸歴史館」では「幕末維新期の佐賀」を紹介し、「大隈重信記念館」や「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」では、佐賀の偉人を紹介しているが、佐賀のまちの歴史や地域性を学べる施設がない。

周辺の歴史施設	展示内容
佐賀城本丸歴史館	日本の近代化に貢献した「幕末維新期の佐賀」の輝かしい時代を検証し、変革の時代を生きた人々のエネルギーを体感できる
大隈重信記念館	早稲田大学の創設者であり、総理大臣を2度歴任した大隈重信侯に関する歴史資料を展示するほか、大隈侯の功績を紹介
佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館	日本赤十字の父「佐野常民」と世界遺産「明治日本の産業革命遺産」“三重津海軍所跡”の魅力は大迫力の映像と展示で伝える

■松原公園周辺の課題



第3章 松原公園整備における課題

1 ワークショップ・アンケートの結果

○ワークショップ・アンケートの概要

基本構想策定にあたっては、広く市民県民の意向を把握するため、ワークショップ・アンケートを行いました。

【調査結果概要】

	場所	調査方法	参加者数・回収数
ワークショップ	佐嘉神社記念館	現地散策・ワークショップ	参加者(延べ): 69人
記入型アンケート	徴古館前 松原神社境内	現地配布回収	現地来訪者: 511人
聞き取りアンケート	松原神社境内	聞き取り	現地来訪者: 196人

○ワークショップの開催

令和6年5月26日、6月23日の2回に渡って「松原公園整備を考えるワークショップ」を開催しました。

第1回は39名、第2回は30名の方々に参加いただき、グループごとに松原公園整備に対する率直な意見をいただくとともに、理想の松原公園整備について発表してもらいました。



▲ワークショップの様子



▲現地散策の様子

第1回松原公園整備を考えるワークショップ
テーマ:「こんな場所になればいいな」
開催日:令和6年5月26日(日)
時間:13:30~16:00
参加者:39名(6班)
<ul style="list-style-type: none"> ●松原公園の現地散策 ●グループワーク
STEP1 松原公園の魅力と課題を出し合おう
STEP2 松原公園で何がしたいのか考えよう
STEP3 将来像を実現するためのキーワードを考えよう

第2回松原公園整備を考えるワークショップ
テーマ:「地図に整備イメージを描こう」
開催日:令和6年6月23日(日)
時間:13:30~15:30
参加者:30名(6班)
<ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク
STEP1 イメージ像をどうやって実現させるか考えよう
STEP2 松原公園の整備計画を考えよう

■配布したワークショップのチラシ

松原公園整備を考えるワークショップ

主催:佐賀市・佐賀県・公益財団法人鍋島報効会・佐嘉神社

松原公園周辺の整備イメージ

2024年

第1回

5月26日 日曜日
13:30~16:00 開場 13:00

第2回

6月23日 日曜日
13:30~16:00 開場 13:00

会場 佐嘉神社記念館 3階
問合せ 佐賀市歴史・文化課
☎ 0952-40-7103 FAX 0952-40-7382
Mail: rekishibunka@city.saga.lg.jp

※お車で来場される方は、佐嘉神社記念館南側の駐車場をご利用ください。

テーマ 松原公園の整備について考えよう

第1回

①現地確認
②話題提供
③グループワーク(こんな場所になればいいな。)
④発表

第2回

①グループワーク(地図に整備イメージを描こう。)
②発表

◎専用申込フォーム
右のQRコードをスマートフォン等のカメラで読み取り、送信してください。

参加・お申込みについて

【申込締切】 5月9日(木)

【申込方法】 メール、QRコード、またはファックス

※応募多数の場合は、早めに締め切る場合があります。

・メールでお申込みの場合
下記の必要事項を記載の上、メール送信してください
件名「松原公園整備を考えるワークショップ参加申込」
①代表者氏名(年齢)②参加総人数③参加者氏名(年齢)
④所属(個人・ご家族の場合は不要です)⑤メールアドレス
メール送信先 rekishibunka@city.saga.lg.jp

・ファックスでお申込みの場合		下記枠内にご記入の上、FAX 送信してください	
代表者氏名	年齢()	参加総人数	所属
電話番号	メールアドレス	個人・ご家族の場合は不要です	
			FAX 送信先 0952-40-7382

お持ちの方はご記入ください			
参加者氏名	年齢()	年齢()	年齢()

複数名で参加申込頂く場合は、申込者以外の方のお名前をご記入ください。
 ・ワークショップの傍聴は可能です。(傍聴者は事前申し込み不要ですが、座に限りがあります)
 ・ご提供いただきました個人情報は、本ワークショップに関すること以外には使用致しません。

第3章 松原公園整備における課題

○ワークショップのまとめ【第1回】

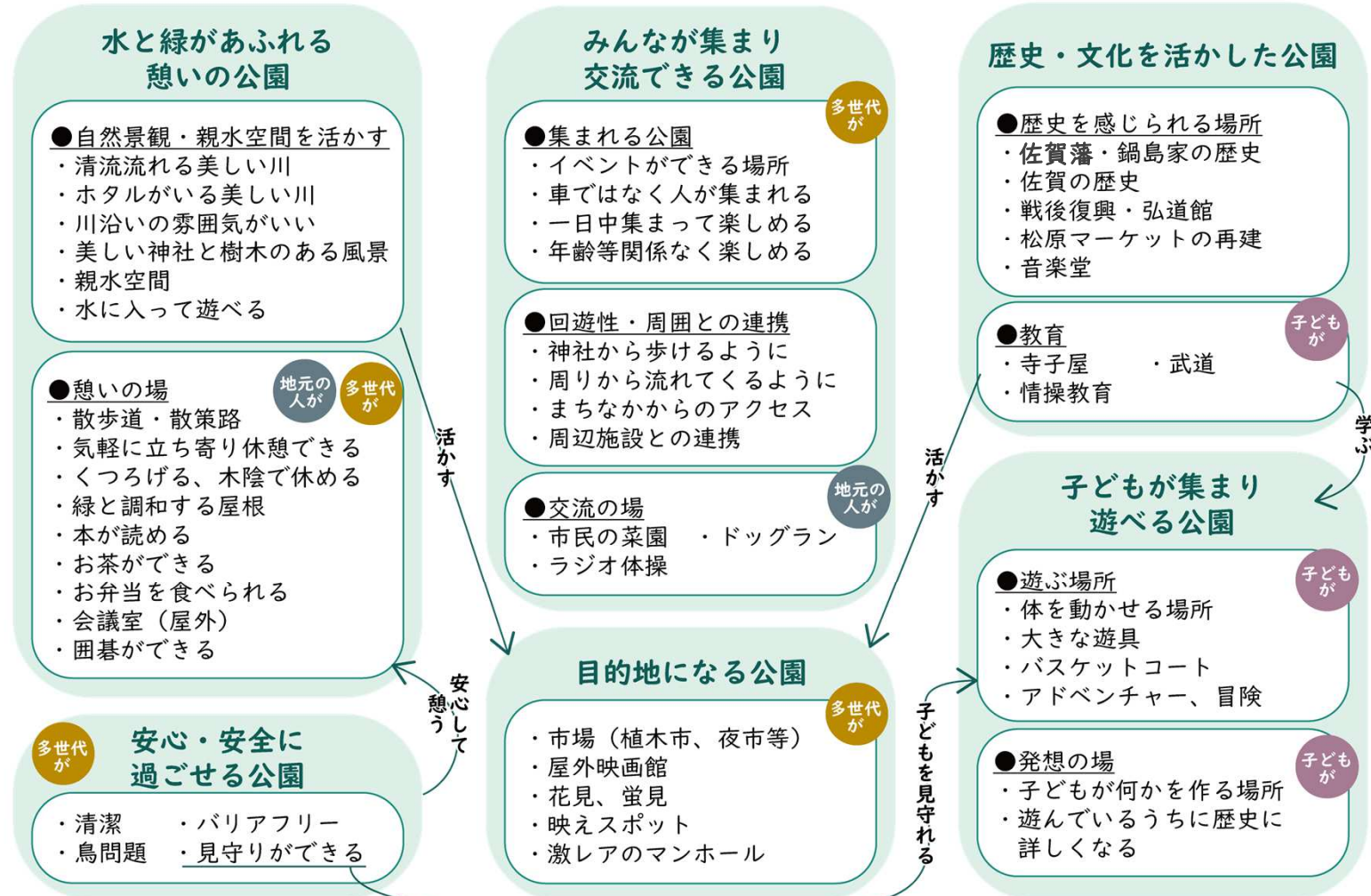
第1回ワークショップでは、松原公園の魅力と課題について意見交換を行い、理想の松原公園について、グループごとにまとめて発表しました。

【STEP1】松原公園の魅力と課題は？

	魅力	課題
松原公園	<ul style="list-style-type: none"> 銅像園の歴史 まちのつながりが感じられる 松原マーケットの歴史 まんじゅう屋の集客力 開放感がある 楠木の大き木をはじめとした自然 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場が中心で公園になっていない 遊ぶ場所、遊具がない 日かげや屋根など休憩場所がない 境界がわかりにくい ブロック塀を撤去 認知度が低い 子どもの声がない 日常の人通りがない フンなどの鳥害
松原川	<ul style="list-style-type: none"> 河童の堀がいい 松原川の川辺の景観がいい 水がきれい 水辺が涼しい ホテルや鯉などの生き物がある 	<ul style="list-style-type: none"> 松原川が公園とつながっていない もっと綺麗にしてほしい 川で遊べない 水辺周辺に路上駐車が多い 下水垂れ流し
佐嘉神社・松原神社	<ul style="list-style-type: none"> 人が少なく静かな雰囲気がいい 神社の前の広場 歴史を感じられる 古木が多い 白砂の地面 参道がきれい 日峯さんなどのイベント 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木の植え替えデザイン化が大変 木が生い茂っていて物騒 東西の動線
松原公園周辺エリア	<ul style="list-style-type: none"> 立地がいい(まちなか、佐賀城跡) 交通(バス)の便がいい 中心市街地の安らぎの空間 目的地となる 鍋島家の歴史がある ボートの復活 	<ul style="list-style-type: none"> 雰囲気の統一感が必要 一箇所のみでは観光地としては狭い 佐賀城跡と隔てられていて一体感がない 映えスポットがない 多言語の説明サインが足りない 名前である松原がない 周りからのアクセス 県外の人へアピール

【STEP2】こんな場所になればいいな。

※各グループの提案を整理



第3章 松原公園整備における課題

○ワークショップのまとめ【第2回】

第2回ワークショップでは、第1回での議論を踏まえ、改めて松原公園に必要な機能を考え、機能の配置を反映した松原公園の整備計画をグループごとにプレゼンしました。

【第1回STEP3】将来像を実現するためのキーワードを考えよう

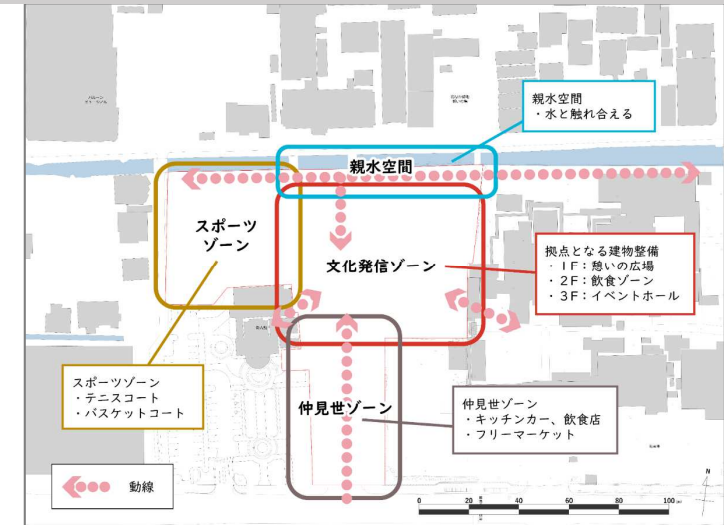
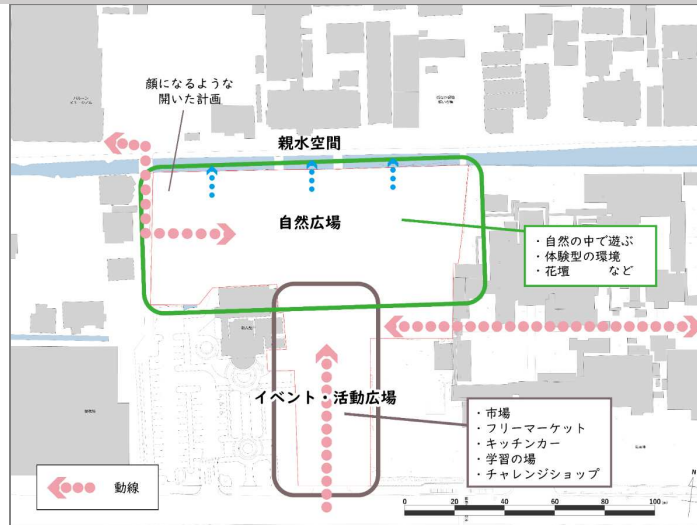
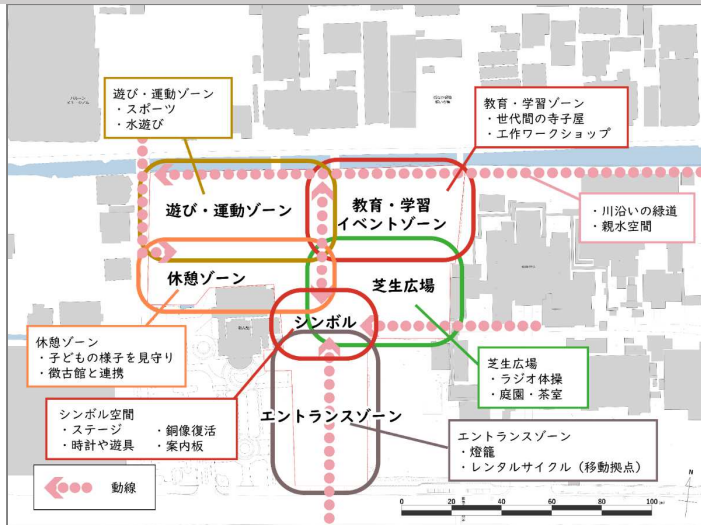
班	イメージ像	キーワード3つ
A	佐賀藩の歴史の中で世代間の交流が日常的にできる公園	<ul style="list-style-type: none"> 佐賀藩の歴史 世代間のつながり 日常
B	水と緑を活かした歴史と地元愛にあふれたくつろぎの松原公園	<ul style="list-style-type: none"> 水と緑を活かしたくつろぎの 地元愛あふれる観光公園
C	地元の人が鍋島家の治政を感じる公園	<ul style="list-style-type: none"> 住んでいる人が行きたくなる場所 住んでいる人中心 地元の人が文化資本を形成できる場 鍋島家の治政を感じる
D	みんなが集まる明るい水と文化の交差点	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも明るい安全 歴史文化 美しい川 親しめる
E	非日常が住まう自然を楽しむ公園	<ul style="list-style-type: none"> 人(教育) 自然 公園・施設の機能
F	自由度が高く子どもたちの発想の場となる公園	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの発想の場 健康 安全面

【STEP1】イメージ像をどうやって実現させるか考えよう

分類	必要な機能(意見抜粋)		
自然との触れ合い	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中で遊べる空間 庭園、花壇 	<ul style="list-style-type: none"> 親水テラス 水辺に降りて遊べる空間 	<ul style="list-style-type: none"> 砂地 船着き場
憩い	<ul style="list-style-type: none"> 芝生広場 歩きやすい舗装 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな屋根 木陰 	<ul style="list-style-type: none"> 屋内空間(畳など) 動かせるイス
教育・学習	<ul style="list-style-type: none"> 寺子屋や茶室 教え合える空間(弘道館) 	<ul style="list-style-type: none"> 問を貼る掲示板 神社や弘道館の説明書き 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を知れる機能 VRで昔の風景を見れる
遊び・運動・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 自然遊び 多目的広場 	<ul style="list-style-type: none"> 広場、砂地 スポーツができる建物 	<ul style="list-style-type: none"> テニスコート、バスケットコート
集客・交流	<ul style="list-style-type: none"> 市場機能 シンボル(銅像の復活など) イベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 佐賀のもの、お土産が買える 佐賀のものが食べられる 	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりの体験の場 地下駐車場
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 街灯を設置し明るくする 防犯カメラ 	<ul style="list-style-type: none"> 車との分離 災害対応 	
案内・回遊性・PR	<ul style="list-style-type: none"> 案内板・神社や弘道館の説明書き 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の施設やイベントとのつながり 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信

【STEP2】松原公園の整備計画を考えよう

※6班の意見の特徴から、3つのゾーニング図に整理



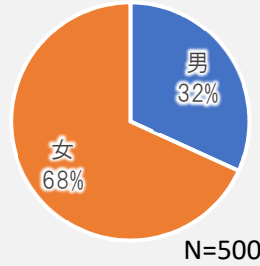
第3章 松原公園整備における課題

○記入型アンケート調査

松原公園の現在の利用状況や、どのような整備が望まれているのか、市民意向を把握するため、下記期間において記入型アンケート調査を実施し、計511人の方々に回答いただきました。

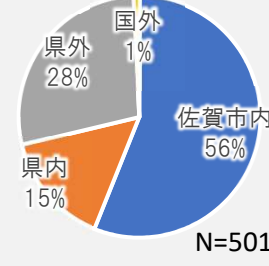
実施日時	場所	回答数
R6.3.16(土)、20(水祝) ひなまつり期間中	徴古館前	199件
R6.4.11(木)、12(金) 春の日峯さん期間中	松原神社 境内	53件
R6.11.3(日)、4(月) バルーンフェスタまちなかイベント期間中	松原神社 境内	259件

■回答者の性別

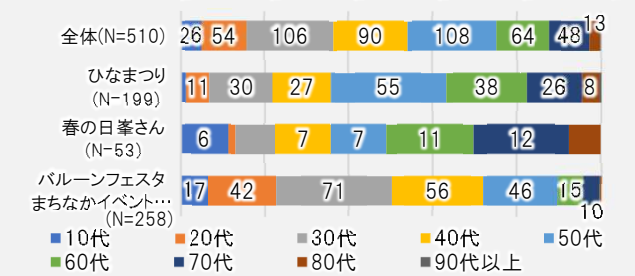


- ・回答者の約7割が女性
- ・佐賀市内からの来訪者が約5割、県外からは約3割。
- ・県外28%(140人)のうち、16%(82人)が福岡県から。

■回答者の居住地

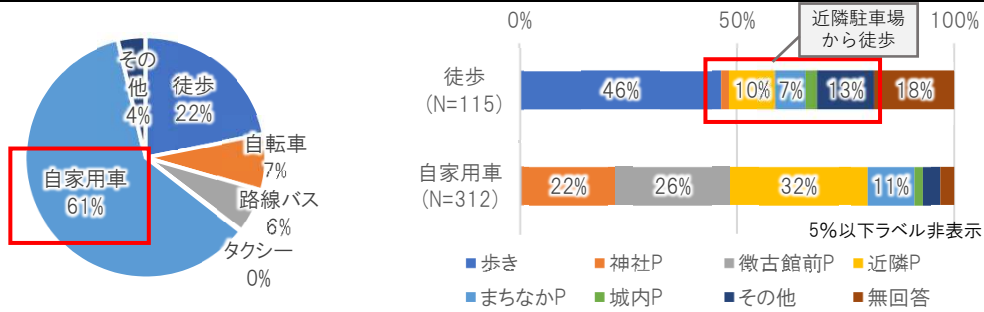


■回答者の年齢



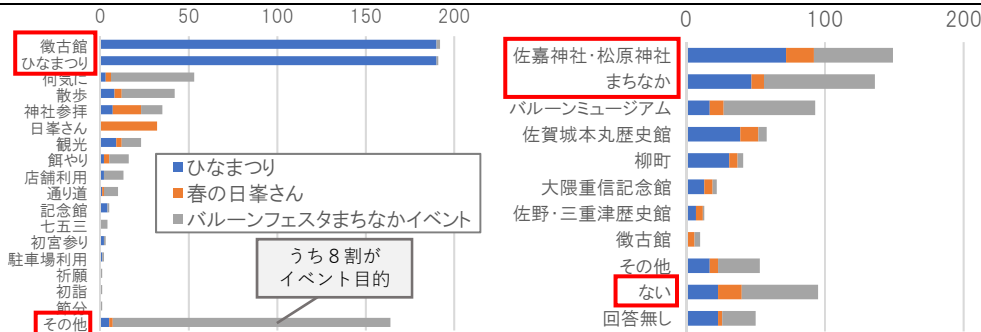
- ・幅広い年代から意見を収集。
- ・「バルーンフェスタまちなかイベント」来訪者の年齢層が比較的若い。

1. 松原公園までの交通手段(左) 自家用車の駐車場所(右)



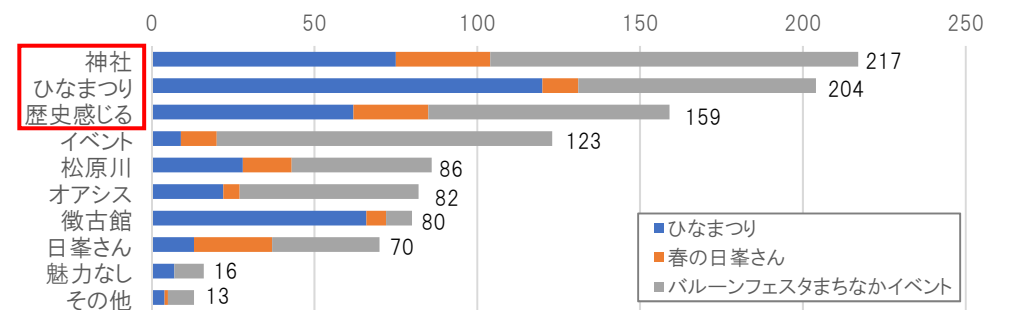
- ・約6割が「自家用車」で来訪。
- ・「徒歩」のうち、約半数が周辺駐車場を利用。全体の約7割が自家用車で来訪していることに。

2. 松原公園に来た目的(左) 目的以外で訪れる場所(右)



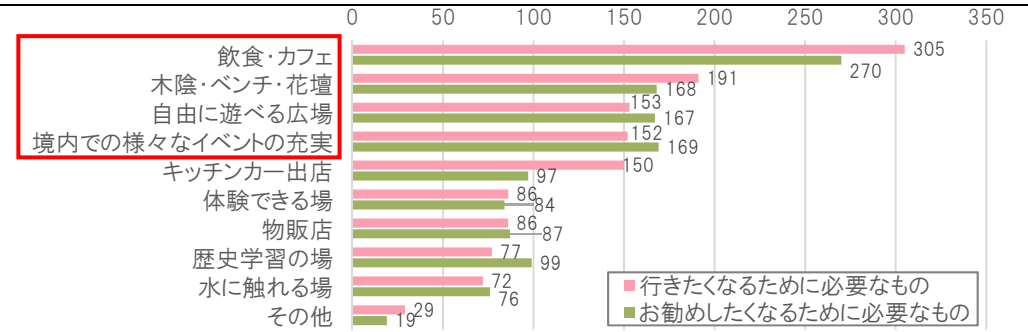
- ・各イベントを目的として来ている人がほとんど。
- ・目的以外では、佐嘉神社やまちなかに訪れている人が多く、どこにも訪れていない人は2割程度。

3. 松原公園の魅力



- ・「神社」が最も多く、次いで「ひなまつり」、「歴史を感じる点」が多い。
- ・ひなまつり期間以外でも「ひなまつり」を魅力と感じる人は多い。

4. 松原公園に必要な機能



- ・「飲食・カフェ」を必要だと感じる人が多い。
- ・行きたくするためには「木陰・ベンチ等」が必要で、お勧めしたくなるには、「木陰・ベンチ等」に加えて「自由に遊べる広場」や「イベントの充実」が必要。

第3章 松原公園整備における課題

○松原公園整備に向けた導入機能に関するアンケート調査

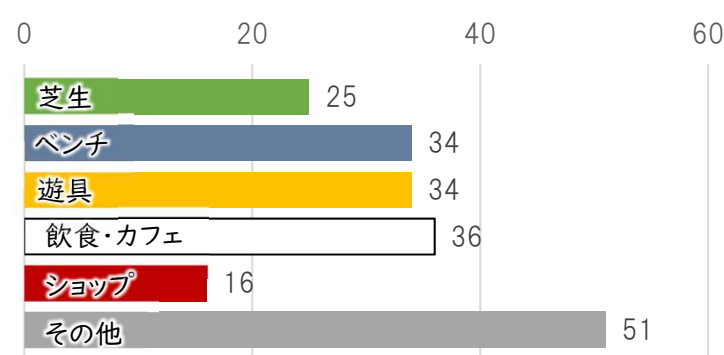
令和6年11月のバルーンフェスタまちなかイベント開催時に、松原神社境内にて「松原公園整備に向けた導入機能に関するアンケート」を行いました。イベント参加者に、地図上にカラーシールを貼ってもらい、松原公園内のどこにどんな機能が欲しいのかを調査しました。

実施日時	場所	回答数
R6.11.3 (日)、4 (月) バルーンフェスタまちなかイベント期間中	松原神社 境内	196件

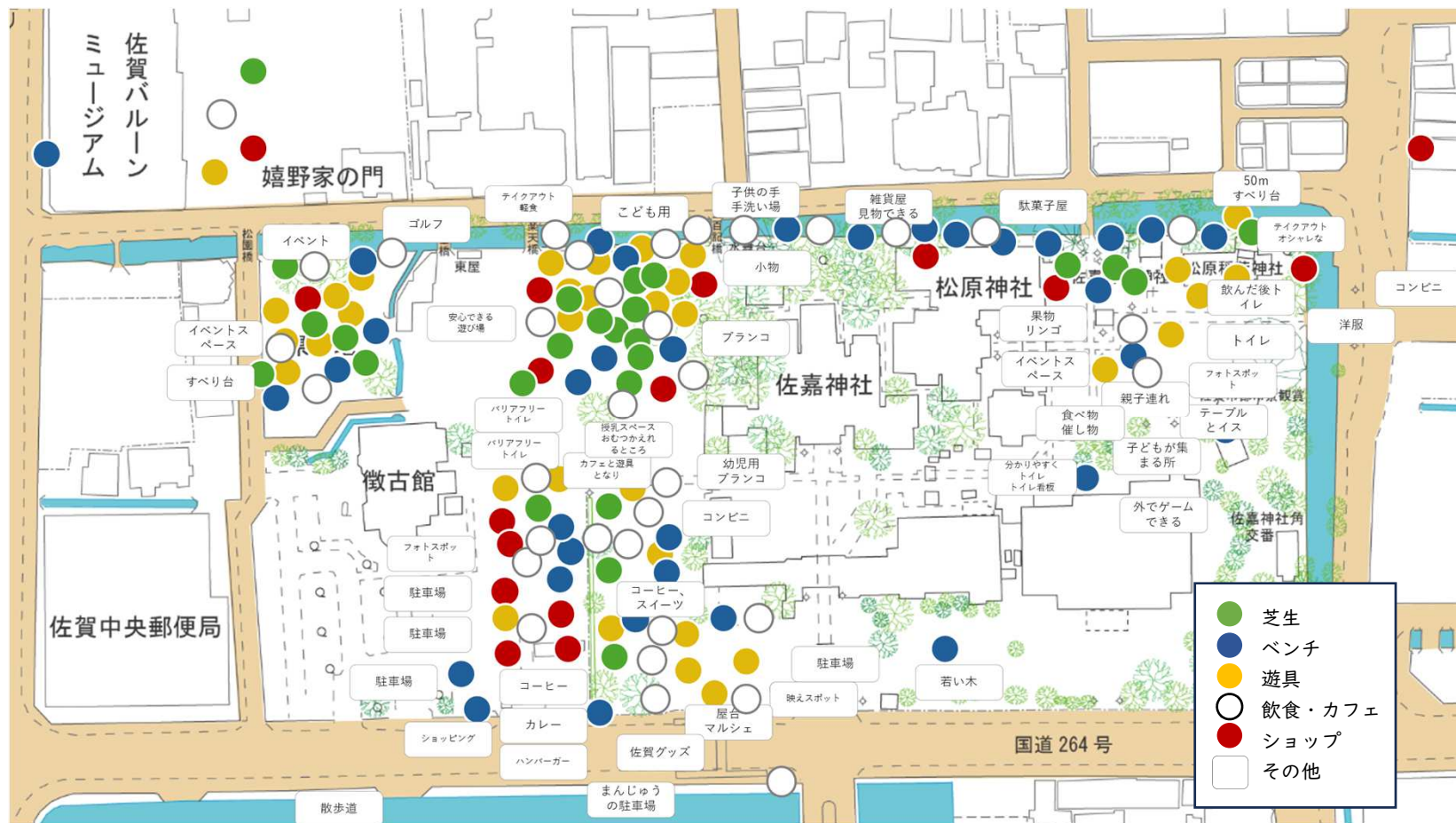
■アンケート調査の様子



■松原公園にほしい機能 集計結果



【松原公園にほしい機能 調査結果】



【エリア別の傾向】

- 全体
 - ・ベンチ、遊具、飲食・カフェが多い
- 松原川沿い
 - ・芝生、ベンチ、遊具、飲食・カフェが多い
 - ・その他の意見としておしゃれなテイクアウト、駄菓子屋、雑貨屋、こどもの手洗い場など
- 中央(国道沿い)
 - ・飲食・カフェ、ショップ、ベンチが多い
 - ・その他はマルシェなど
- 徴古館周辺
 - ・飲食・カフェ、ショップが多い
 - ・その他はコンビニ、授乳スペースなど
- 松原神社境内
 - ・芝生、ベンチ、遊具が多い
 - ・その他はトイレ、テーブルとイス、フォトスポットなど

第3章 松原公園整備における課題

2 四者連携会議での議論

松原公園の整備予定地の土地所有者である佐嘉神社、鍋島報効会、佐賀県と、公園整備の主体となる佐賀市の四者が一堂に会し、基本構想策定会議での議論を共有しながら意見交換や協議を行いました。

また、徴古館は令和9年(2027)に開館100年、佐嘉神社は令和15年(2033)に創建100年を迎えるため、公園周辺におけるそれぞれの記念事業と公園整備との連携について、今後も四者で連携を図りながら進めていく必要があります。

3 基本構想策定会議での議論

基本構想策定会議を開催し、懇話会で策定された将来像をより魅力的なものにするために議論を行いました。策定会議で出た意見を下記の通り整理します。

▶機能や空間整備の考え方

- 歴史を振り返るばかりでなく、**未来へとつながる空間**にすべき。
- 周辺にはない機能**とすべきである。(ARKSや佐賀城公園の広場との差異化)
- 鍋島の考え方**を受け継いでいけば、例えBMXでも歴史や伝統とつながる。
- 変化を受け入れる施設機能。
- 松原川側が裏ではなく、どこからでも入れるというイメージで考えるべき。
- 大きな建物1つではなく、**仲見世**のような小さい店舗。
- 体験型**の場所とすれば大きく変わる。

▶周囲との関係性や、回遊性創出の考え方

- 歩行者を増やして「**歩くまち**」としていきたい。
- 駐車場をなくすことはできないが、共用できる駐車場として考えていくべき。
- 新馬場通り**の位置づけも併せて検討すべき。
- 松原公園で東西の回遊軸を作り、駅から佐賀城跡の南北軸と併せたまちなかの回遊を生み出す。

▶ターゲット設定や検討プロセス

- 子どもをターゲットにすると、多世代に興味を示してもらえる。
- 子育て世代の若い人**をターゲットとし、時間軸で考える。
- ワークショップ開催などにより、市民参画の機会を設けるべき。
- サウンディングに加え、地元の方々等の利用者との議論を深めながら進めるべき。

▶松原公園に必要な機能と、その配置やデザインの考え方

- 松原川と親和性のある空間、**水に親しむ空間**。
- 神社と徴古館の間に、両施設をつなぐ**別館のような機能**。
- 徴古館と神社の**東西を結ぶ動線**や、**南北の動線**づくり。
- 鍋島家と市民のつながりを表現していく。
- 松原神社、佐嘉神社の景観づくりを進め、神社としてのあるべき姿に戻していく。
- 夏の暑さを考慮したデザイン**、夏や冬も遊べる室内施設や日陰空間。
- バス拠点など、**公共交通網の整備**が必要。
- まちなかの行き来ができる動線づくりが必要。
- 周辺の駐車場**を利用してもらい、**歩いてきてもらう**。
- 日常的に人の流れが生じる機能として、子育てがキーワードになる。
- 子育て世代**に使ってもらえる公園に。

▶検討プロセスについて

- ソフト面の議論が必要。→役割分担をして進めていく
- 佐賀に精通した人など様々な人の意見を聞きながら進めるべき。

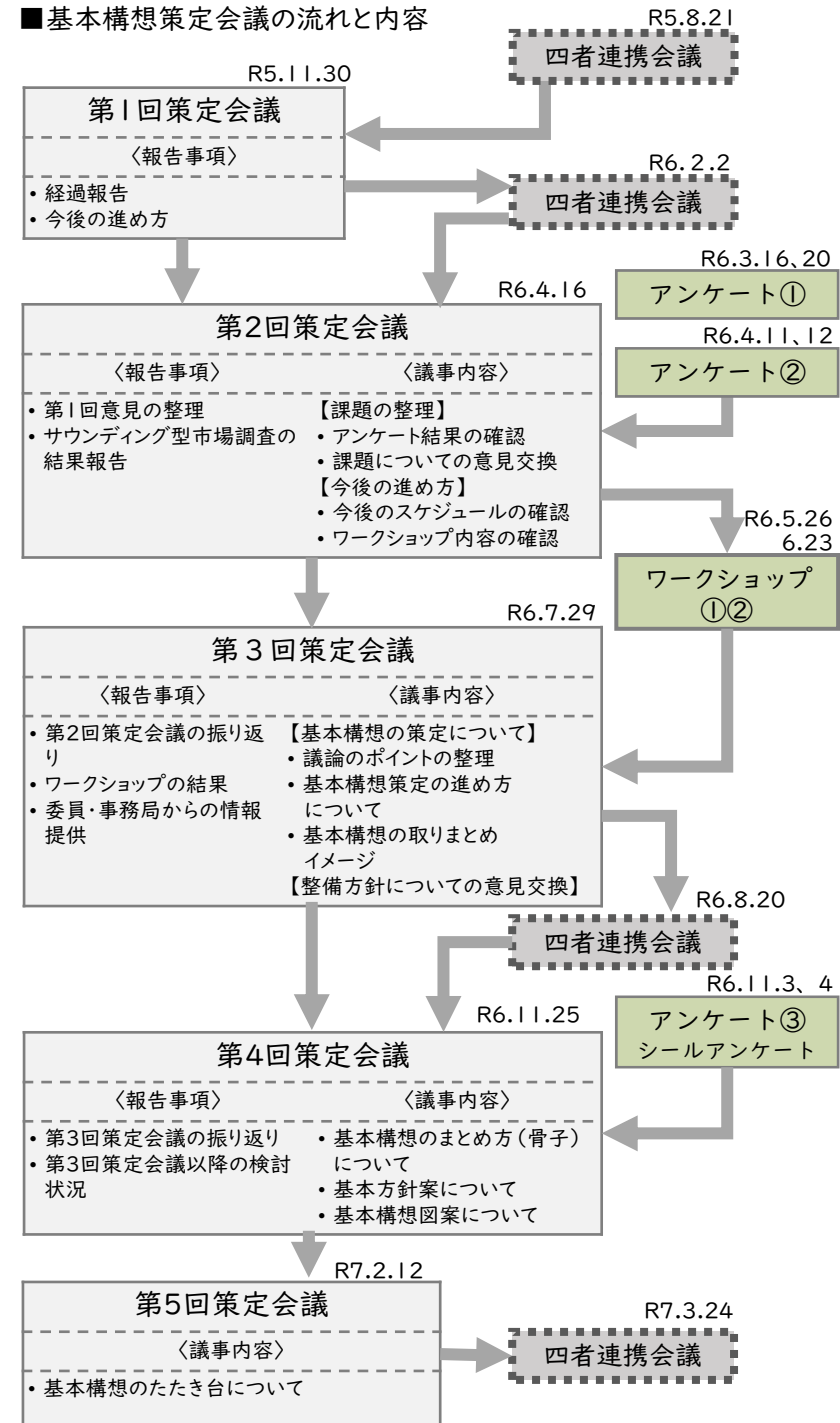
■現地確認状況



■会議状況



■基本構想策定会議の流れと内容



4 課題の整理

これまでの、アンケート調査やワークショップの結果、基本構想策定会議や四者連携会議での議論をもとに、松原公園整備におけた課題として、キーワードを整理しました。

	空間形成について	拠点性や回遊性について	機能について
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 松原公園の魅力は「神社」と回答した人が最も多く、「ひなまつり」「歴史を感じる」と続く 「松原川」や「オアシス」と回答した人は比較的少なく、魅力として認知してもらうための取り組みが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 約7割が自家用車で来訪している 各イベントを目的として来訪している人がほとんど イベント以外には、佐嘉神社やまちなかに訪れている人がそれぞれ約3割、どこにも訪れていない人は約2割で、回遊性向上のため周囲の魅力アップの取り組みも必要 	<ul style="list-style-type: none"> 行きたくなる、お勧めしたくなるには、「飲食・カフェ」が必要だと回答した人が最も多い。 行きたくなるには、「飲食・カフェ」の他、「木陰・ベンチ等」が必要 お勧めしたくなるには、「木陰・ベンチ等」に加えて、「自由に遊べる広場」、「イベントの充実」が必要
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 霧囲気の統一感が必要 水と緑があふれる憩いの公園 歴史・文化を活かした公園 美しい神社と樹木のある風景 清流流れる、蛍がいる美しい川 緑と調和する屋根 川沿いの霧囲気を活かした、親水テラス緑道 水辺に降りて遊べる 銅像の復活やステージなど、シンボル空間を作る 灯ろうによるエントランス空間 照明灯の設置や見通しの確保など、安全・安心に過ごせる 	<ul style="list-style-type: none"> まちなかからのアクセスなど、周りから人が流れてくる 周辺施設（徴古館、神社、佐賀バルーンミュージアム、佐賀城跡など）との連携 イベントとのつながり 案内板の設置などで、回遊を促す 神社、弘道館などの説明書き 堀を活用し、舟を使った移動 まちなかからの定期周遊バス 観光コースにいれるなどして、情報発信 周辺のまちへの出発拠点に レンタルサイクル（移動拠点） 	<ul style="list-style-type: none"> みんなが集まり、交流できる くつろいだり、本を読んだり、お茶ができる 気軽に立ち寄り、休憩できる 歴史を感じ、学ぶことができる 寺子屋など、子どもが学べる 身体を動かして遊べる、自然遊びができる 創作できる場など、こどもの発想の場 子どもの様子を見守れる休憩スペース 松原マーケットの再建 佐賀のものが買える、佐賀を体感できる 市場や屋外映画館、映えスポットなど、目的地になる 安心・安全に過ごせる
策定会議・四者連携会議	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を振り返ることに加え、未来へとつながる空間 松原神社、佐嘉神社の景観づくりを進め、神社としてのあるべき姿に戻していく 松原川と親和性のある空間、水に親しむ空間 大きな建物一つではなく、仲見世のような小さな店舗 つなぎのデザイン（施設/エリアをつなぐ、過去と未来をつなぐ） 徴古館や神社などの歴史的な建物を活かしながら、未来を感じさせるデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者を増やして「歩くまち」に 徴古館と神社の東西を結ぶ動線や、南北の回遊軸を作る 日常的に人の流れが生じる機能 バス拠点など、公共交通網の整備が必要 まちなかとの行き来ができる動線づくり 松原川が裏ではなく、どこからでも入れる 周辺の駐車場を利用して、歩いてきてもらう 新馬場通りの位置づけも検討 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺にはない機能（ARKSや佐賀城公園の広場等との差異化） 徴古館と神社の間に、両施設を繋ぐ別館のような機能 鍋島家と市民のつながりを表現 鍋島の考えを受け継ぎ、変化を受け入れ未来を創る考え 多世代の興味を引く 子育て世代に使ってもらえるような公園に 小さな子どもでも利用できる遊び場（遊具）の設置 夏の暑さを考慮したデザイン、夏も冬も遊べる室内施設や日陰空間 体験型の場所

第4章 基本方針と松原公園周辺へのまちづくりの展開

I 基本方針

懇話会にて取りまとめた「松原公園周辺の将来像」や、第3章の4でまとめた松原公園整備に向けたキーワードをふまえ、3つの基本方針を設定します。

【松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会】

松原公園周辺の将来像 佐賀鍋島の伝統と、文化が息づく歴史体感エリア～みんなで創り、未来へ紡ぐ“松原”～

第2期整備コンセプト

- 憩いの緑や松原川の水辺を活かし、気軽に訪れたい場所として整備し、核となる松原神社・佐嘉神社・徴古館へと誘う
- まちなかからの動線や徴古館・神社との自由な往来を意識した整備

keyword

【策定会議・四者連携会議】 | 【アンケート・ワークショップ】

- 未来へとつながる空間
- 松原神社、佐嘉神社の景観づくり
- 松原川と親和性のある空間
- つながりのデザイン
- 水と緑があふれる憩いの公園
- 歴史・文化を活かした公園
- 安全・安心に過ごせる公園
- 美しい神社と樹木のある風景

基本方針1

魅力的な空間形成
「歴史と自然が織りなす、
心惹かれる風景」

keyword

【策定会議・四者連携会議】 | 【アンケート・ワークショップ】

- 歩行者を増やして「歩くまち」
- 東西、南北の回遊軸を作る
- まちなかとの行き来ができる動線づくり
- 周りから人が流れてくる
- 周辺施設との連携
- 周辺の施設やイベントとのつながり
- 情報発信
- 移動拠点

基本方針2

拠点性・回遊性の向上
「佐賀のまちをつなぐ拠点」

keyword

【策定会議・四者連携会議】 | 【アンケート・ワークショップ】

- 鍋島の考え方を受け継ぐ
- 多世代の興味を引く
- 鍋島家と市民のつながりを表現
- 夏の暑さを考慮したデザイン
- みんなが集まり、交流できる
- 松原マーケットの再建を目的にする
- 気軽に立ち寄り休憩できる
- 歴史を学ぶことができる

基本方針3

にぎわいの創出
「世代を超えて集う、
交流と学びの場」

I 基本方針

基本方針1

魅力的な空間形成
「歴史と自然が織りなす、
心惹かれる風景」

整備の考え方

①神社や徴古館、大楠等の歴史・自然を活かした美しい景観

- ・建物と自然が調和したデザインの導入

②松原川を活かした親水空間と川沿い散策路

- ・水辺で遊んだり、ゆったりとくつろげる親水空間
- ・惹きつけられる水辺の散策路

③神社と徴古館、県有地の境界を感じさせない、一体的な空間

- ・統一的なエリアデザイン
- ・軸線を意識した動線計画と、境界のデザイン

④安全で居心地の良い、開放的な空間

- ・見通しの効く配置計画
- ・夜も楽しめる照明計画
- ・ユニバーサルデザインの導入

基本方針2

拠点性・回遊性の向上
「佐賀のまちをつなぐ拠点」

整備の考え方

①まちのゲートウェイとしての機能

- ・佐賀のまちの歴史・文化の入口となる空間
- ・市民県民が日常的に訪れる場所に
- ・県外の方には、最初に訪れたい場所に

②城内、柳町、まちなかをつなぐ拠点としての機能

- ・動線を整備し、歩きたくなるまちに
- ・案内サインにより、他のスポットへのアクセスを促進

③まちに開かれた、誰もが気軽に訪れたい空間

- ・思わず立ち寄りたくなる空間整備
- ・通りから公園の様子が見えるデザイン

基本方針3

にぎわいの創出
「世代を超えて集う、
交流と学びの場」

整備の考え方

①鍋島家とともに育まれてきた、佐賀の歴史や地域性を感じられる場

- ・交流機能を兼ねたギャラリーや展示施設
- ・遊びと絡めるなど、柔らかく学べる仕掛け

②松原の歴史を現代に織り込む

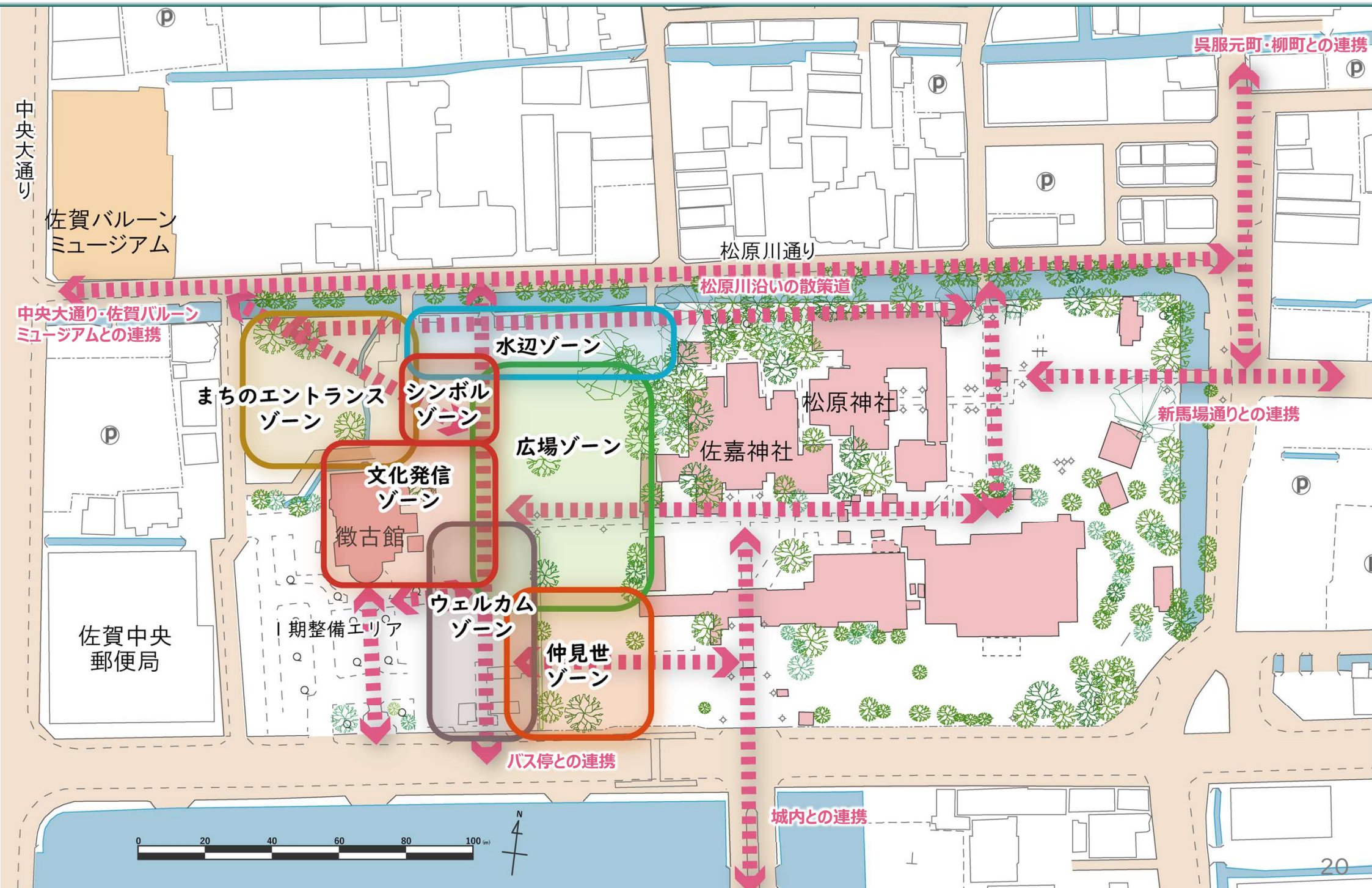
- ・かつての銅像園や松原を新しい松原公園の要素として取り込み、歴史を学び感じられる場を創出

③子どもから高齢者まで、多世代が日常的に交流できる多機能空間

- ・広い広場や子どもの遊び場（遊具）、親水空間
- ・子どもを見守りながら、みんなが憩える安らぎスペース
- ・気軽に立ち寄れるお店や飲食施設
- ・イベント利用も可能な広場などの配置

第4章 基本方針と松原公園周辺へのまちづくりの展開

2 ゾーニング・動線計画



3 整備イメージ

まちのエントランスゾーン

まちなかからの人の流れを松原公園へ誘導する、緑にあふれたエントランスゾーン

- 〈整備イメージ〉
- ・ 親水機能や休憩機能により、まちなかのオアシスとなるよう整備
 - ・ 樹木により、徴古館の背景を演出

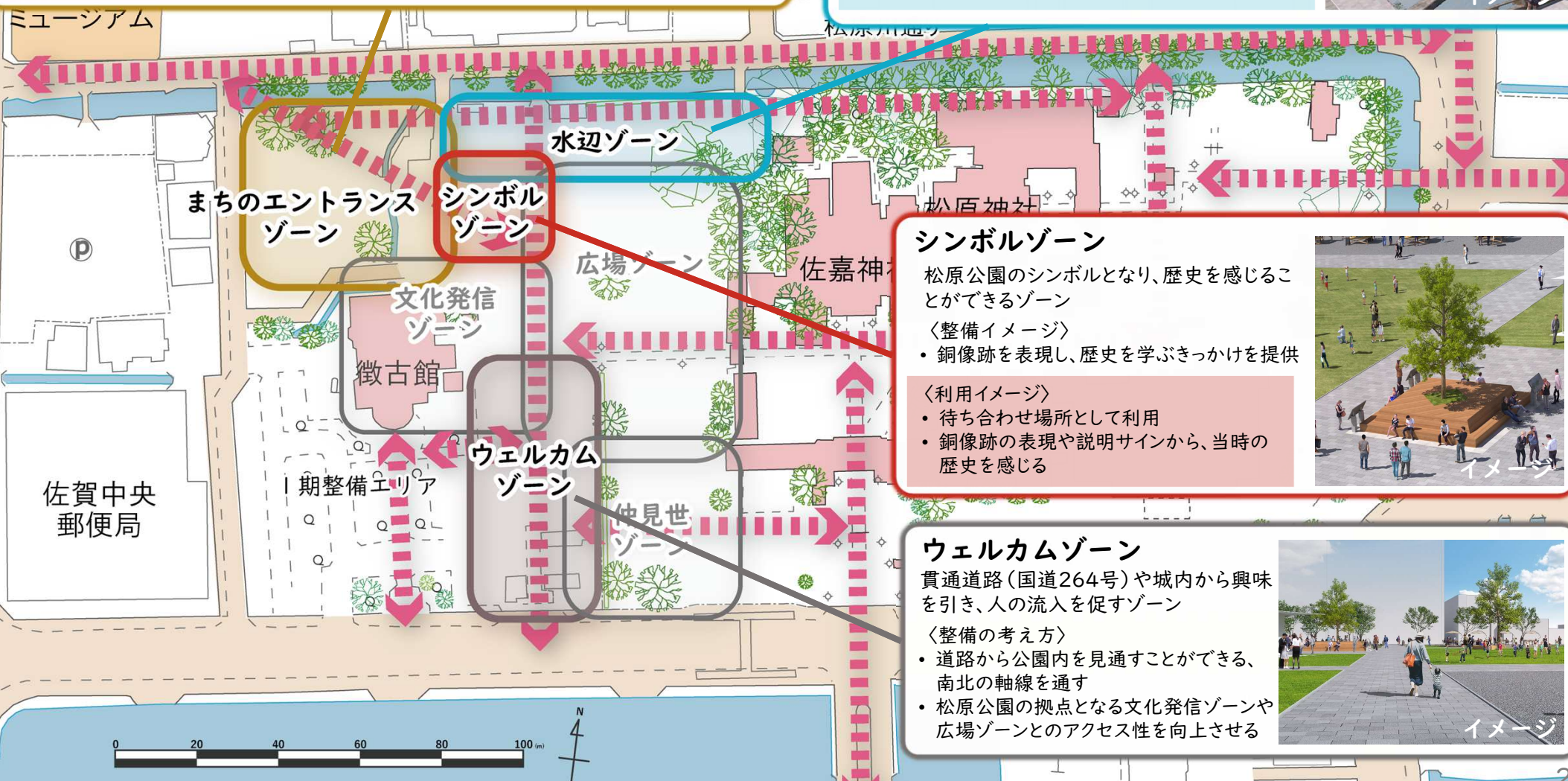
- 〈利用イメージ〉
- ・ 地元の人や観光客がふらっと休憩
 - ・ 親水空間など自然の中で遊ぶ



水辺ゾーン

松原川の豊かな水辺景観を活かした親水空間のゾーン

- 〈整備イメージ〉
- ・ 水辺デッキなどにより松原川を身近に感じられる
 - ・ 水辺の散策路を佐嘉神社側までつなぎ一体的に利用
- 〈利用イメージ〉
- ・ 水辺デッキに座って休憩や飲食
 - ・ 水辺を散策して風情を感じる
 - ・ 松原川に降りて水遊び



シンボルゾーン

松原公園のシンボルとなり、歴史を感じることが出来るゾーン

- 〈整備イメージ〉
- ・ 銅像跡を表現し、歴史を学ぶきっかけを提供
- 〈利用イメージ〉
- ・ 待ち合わせ場所として利用
 - ・ 銅像跡の表現や説明サインから、当時の歴史を感じる



ウェルカムゾーン

貫通道路(国道264号)や城内から興味を引き、人の流入を促すゾーン

- 〈整備の考え方〉
- ・ 道路から公園内を見通すことができる、南北の軸線を通す
 - ・ 松原公園の拠点となる文化発信ゾーンや広場ゾーンとのアクセス性を向上させる



3 整備イメージ

文化発信ゾーン

展示空間やギャラリー、カフェなどにより、まちの歴史や文化を発信するゾーン

〈整備イメージ〉

- 鍋島家とともにあった佐賀市の発展を学ぶことができる場
- 日常的な休憩スポットであり佐賀の歴史文化に親しめる飲食施設

〈利用イメージ〉

- 子どもが歴史を学べる、感じられる
- 観光客が佐賀市の歴史を知りに来る



松原川通り

広場ゾーン

佐嘉神社西側の社寺林を背景としながら、日常利用を中心とした、さまざまな用途に利用可能な広場のゾーン

〈整備イメージ〉

- 佐嘉神社社殿を眺めることのできる、見る見られる関係を活かした空間に
- 周囲の他広場と差別化した広場を整備し、一体的にも区分けしても利用できる空間に
- 佐嘉神社との動線を確保



〈利用イメージ〉

- 子どもが身体を動かして遊ぶ
- 親は見守りながら休憩

仲見世ゾーン

仲見世のようにお店などがあり、人のにぎわいを創出するゾーン

〈整備イメージ〉

- 常設店舗、仮設店舗スペース、休憩場所、通りなどの要素で構成
- 貫通道路(国道264号)や城内、バス停からアクセスしやすい空間に

〈利用イメージ〉

- 食べ物や飲み物を買ってきて休憩
- イベント時には店舗が並ぶ



ミュージアム

まちのエンタランスゾーン

シンボルゾーン

水辺ゾーン

広場ゾーン

佐嘉

文化発信ゾーン

徴古館

ウェルカムゾーン

仲見世ゾーン

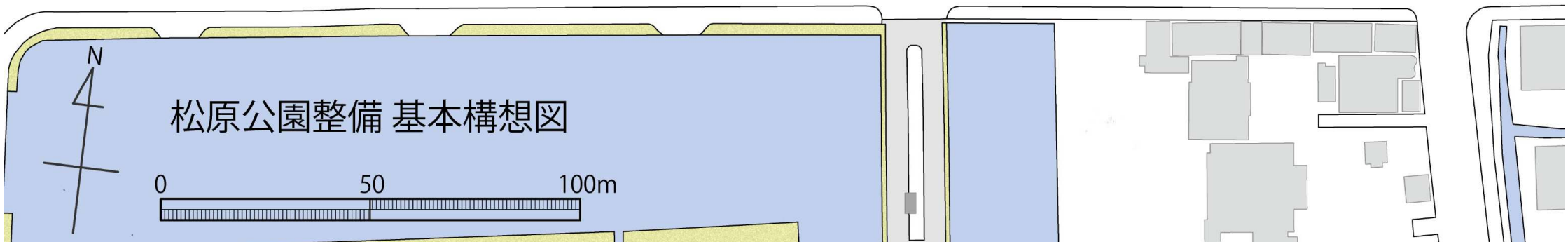
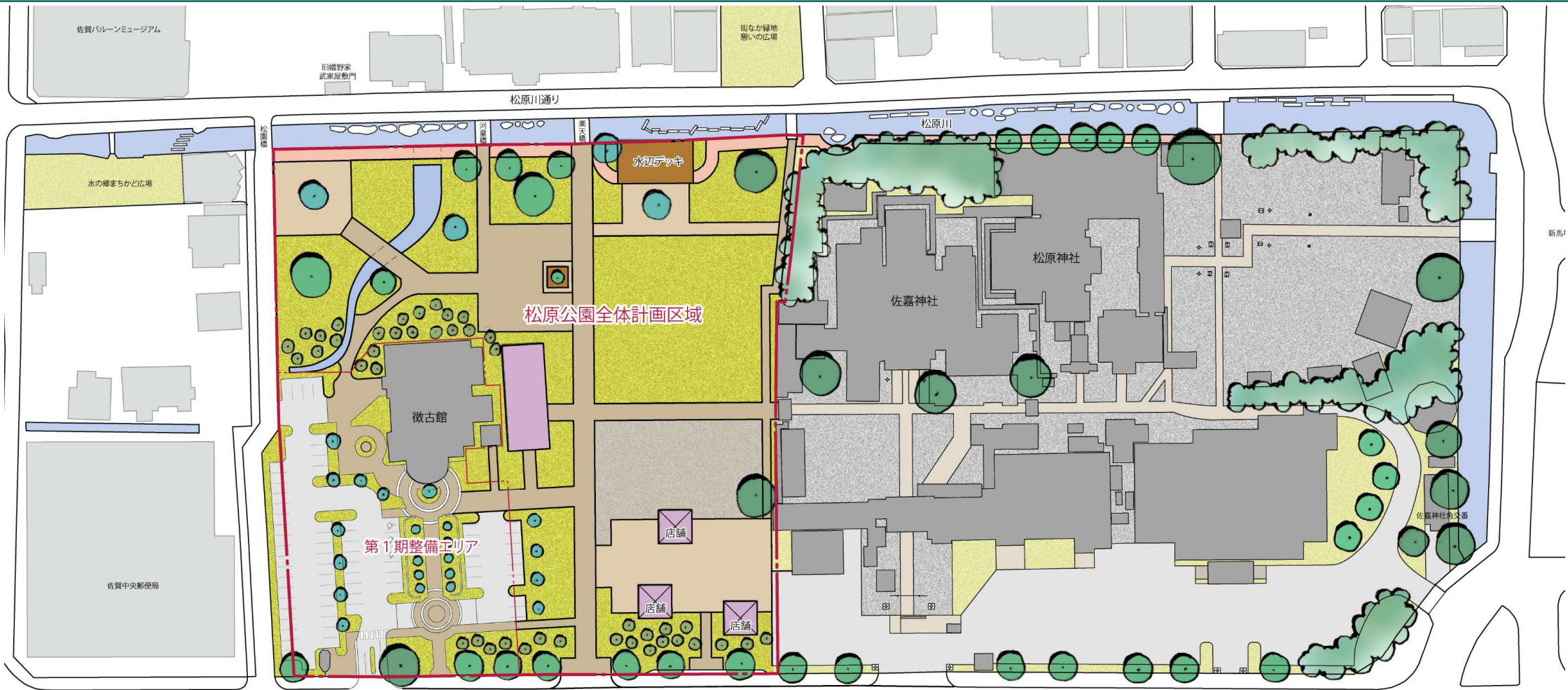
佐賀中央郵便局

1期整備エリア

0 20 40 60 80 100(m)



4 基本構想図



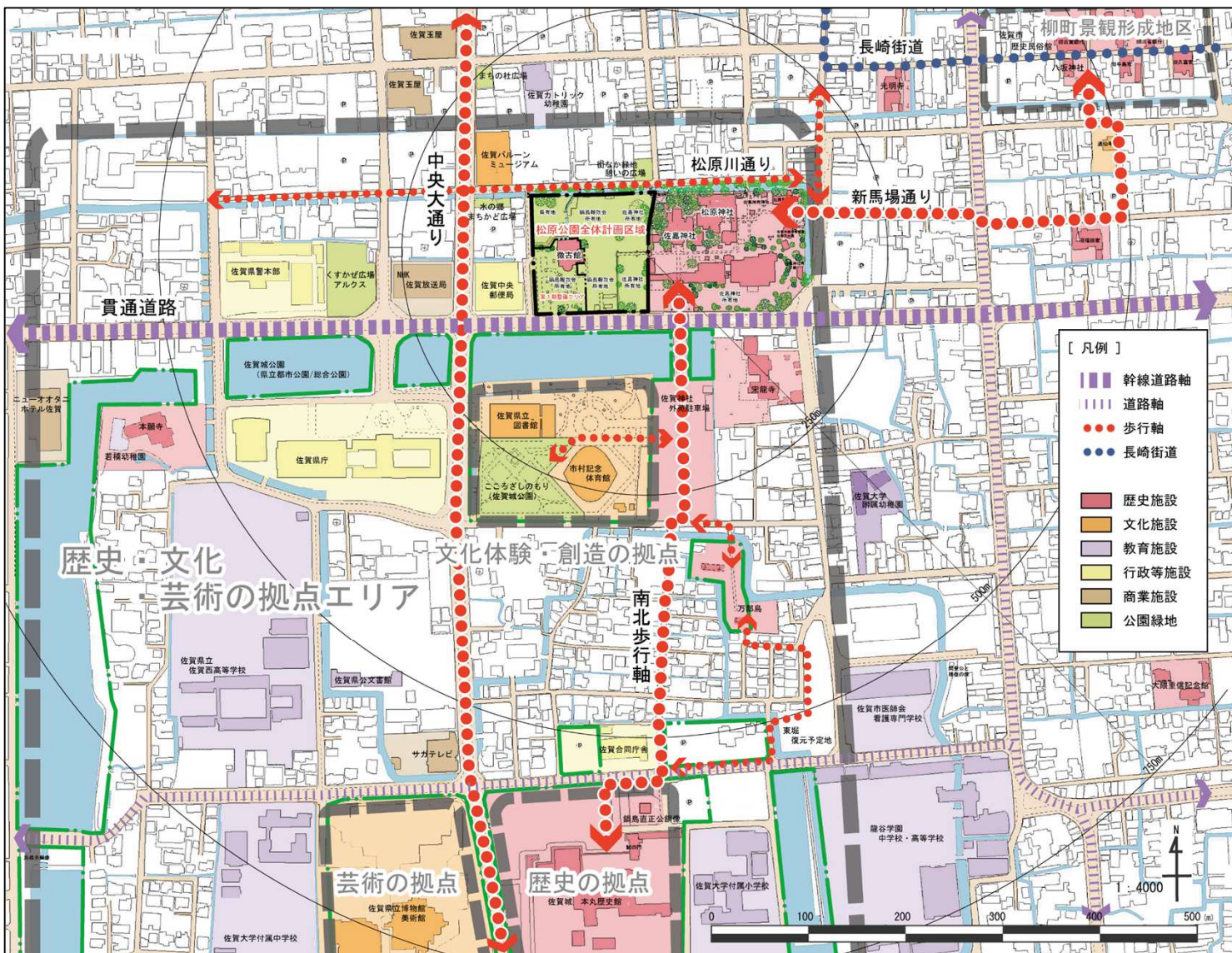
第4章 基本方針と松原公園周辺へのまちづくりの展開

5 松原公園周辺へのまちづくりの展開

○松原公園周辺へのまちづくりの展開

本構想により、松原公園周辺エリアの魅力向上を図るとともに、4核構想や佐賀城内のまちづくりと連携することで、佐賀のまち全体の魅力向上へと展開していきます。

■広域関係図



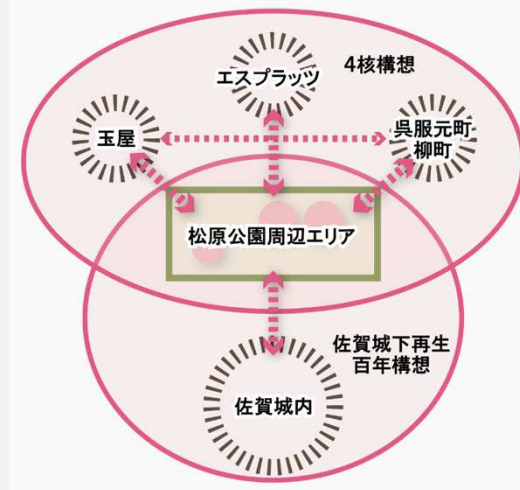
STEP1 魅力的なエリア形成

松原公園を市民県民に親しまれる魅力的な拠点として整備するとともに、周辺エリアを含めた一体的なエリアデザインと動線づくりにより、松原公園周辺エリアを魅力的なエリアにしていきます。



STEP2 他エリアと連携し全体の魅力向上

加えて、松原公園周辺エリアから柳町や佐賀城内との動線整備などにより、4核構想をもとにしたまちなかの魅力向上や佐賀城内を中心としたまちづくりを推進し、佐賀のまちなか全体の魅力向上を図っていきます。



第5章 構想の実現に向けて

市民県民からは日常的に訪れたい公園として、県外の来訪者からは選ばれる場所となるよう、関係者との協議を行いながら本構想の実現化に取り組みます。佐嘉神社・鍋島報効会・佐賀県との協議が今後も必要であり、松原公園整備と各連携事業とを調整しながら取り組みます。

1 整備に向けた検討

松原公園内には、鍋島家伝来の宝物や調度品を所蔵・展示する「徴古館」や周辺には鍋島家当主らをお祀りする「松原神社」「佐嘉神社」があり、この松原公園特有の強みでもあります。

これらの歴史・文化を活かした求心力ある公園としての整備が望まれます。また、周辺エリアへの連携した回遊させる取り組みも必要となります。

このため、佐嘉神社、鍋島報効会と佐賀県をはじめ、市民のみなさんと本構想の「基本方針」を共有しながら、公園整備を進めることが重要です。

2 整備の進め方

令和9年(2027)は「徴古館開館100年」、令和15年(2033)は「佐嘉神社創建100年」を迎え、松原公園整備と連携した事業をそれぞれ検討されています。その他、松原川の活用についても関係部局と連携が必要です。

これらの連携事業は、時間をかけて実施されることから、松原公園の整備は、整備内容・スケジュールを関係者間で調整しながら、進めていくことが重要になります。

また、公園供用後を見据え、計画・設計段階からの広報活動を戦略的に行うとともに、松原川の清掃活動やワークショップなどの実証実験を通して、利活用・運営等のソフト戦略を検討することが重要であり、市民県民や関係者と継続的に検討・協議を進めます。

3 構想実現に向けたフロー（イメージ）

